

第1回「組込みソフトウェア技術指針策定委員会」 議事要旨

1. 日時 平成18年1月26日(木) 10:30~12:30
2. 場所 経済産業省本館2階 西3会議室
3. 議事次第
 - (1) 開会
 - (2) 経済産業省挨拶(経済産業省情報処理振興課長 鍛冶 克彦)
 - (3) 委員長挨拶(東海大学教授 大原 茂之)
 - (4) 委員自己紹介
 - (5) 議事
「中小企業のものづくり基盤技術の高度化に関する法律案」等について
技術指針策定方針について(事務局)
インタビュー調査について(事務局)
 - (6) 委員意見交換(各委員)及び総括(委員長)
 - (7) 事務連絡等(事務局)
 - (8) 閉会
4. 配布資料
 - 資料1-1 委員会次第
 - 資料1-2 座席表
 - 資料1-3 委員名簿
 - 資料1-4 「中小企業のものづくり基盤技術の高度化に関する法律案」概要
 - 資料1-5 中小企業が担う高度基盤技術の例
 - 資料1-6 組込みソフトウェア技術指針フレームワーク案
 - 資料1-7 インタビュー調査項目等
 - 参考資料 「新産業創造戦略2005」概要

5. 委員意見交換(各委員)及び総括(委員長)

【今回の施策対象について】

今回の施策は、組込みソフトウェア産業のどのような企業が対象になるのか。企業規模毎に課題やその対応策が異なることに留意するべき。特に、中小企業では資金繰りの課題が大きいため、そこに留意した施策を検討すべきではないか。

今回の施策は、中小企業基本法に定める中小企業を対象に、技術開発の支援をすることを目的としている。ただし、企業としては取引等を通じて連続的に存在しているので、中小企業の問題だけにフォーカスするべきではない。

中小企業も多様化しているので、すべての企業を対象にできない。技術力等で見た場合に上位の集団(上から3~4割)に入る、やる気と能力のある企業が対象となる。

【組込みソフトウェア技術の方向性について】

「基本的な方向性」で4つ挙げているものの、それぞれ観点が異なるものが入っており、案段階のものであり、今後ブラッシュアップが必要。基本方向として過不足があれば修

整し、今後その方向性をブレイクダウンしていく。

今後の組み込みソフトウェアの技術開発について、川下産業のニーズを抽出し、川上の中小企業がどのような研究開発をすればよいかを指針とまとめることを考えている。その他、人材、知財、取引慣行における課題についても検討していく。

開発ツールの開発なども指針に入るはずだが、ここでの方向性は、コストダウンなのか、開発の効率化なのか等、何を目的にするかによって変わるのではないかと。

コストダウンだけでは解決できない課題が多い。川上、川下が連携して考えるべき。

一つの観点として、中国やインドなどの海外との競争に構造的に勝つ仕掛けが必要である。そのためには品質やプラットフォーム化など、戦略的な考え方が必要。

単品の開発における効率化ではなく、会社全体の生産性、プロダクトライン全体の効率化を対象に考えることが必要。

方向性の中には、付加価値の創造のような前向きなものを入れたほうが良い。さらに付加価値というなかにもどういう要素が価値を創造しているかを考える必要がある。組み込みソフトウェア産業としての付加価値というのは何かということ川下産業のニーズをききながら、より一層ブレイクダウンするべき。

その他の問題に関しては、組み込みソフトウェア業界では、現実には契約、単価等で様々な問題が出ている。

【委員長総括】

本日の追加資料（特定ものづくり基盤技術指針に盛り込む内容）を踏まえて、フレームワーク案をもう一度練り直して、再度お諮りしたい。

（後日メールにて追加総括）

審議する最優先事項は、最終的にはある程度ブレイクダウンした技術指針になります。大きな方向性及び川下産業のニーズを十分に踏まえて、ある程度具体的な技術例を示すことが求められております。従いまして、技術の方向性（セキュリティ、クオリティ等の4つ）は重要ですが、これの精度を上げるのではなく、あくまでも、“川下産業のニーズを十分に踏まえて、ある程度具体的な技術例を提示”が必要と。

6. 事務連絡等

次回予定

- ・次回委員会は、3月7日（火）の本日と同じ時間帯を候補日程とする。

以上